

小さな第一歩

陳 卓

二年前の大学の授業で、「今の中国についてどう思いますか」と聞かれました。発展に伴う環境問題や安全問題などのいろいろなマイナス面を言った学生の答えを聞いた教授は、何も言わずに、ビデオを見せてくれました。

私たちが見たのは建物や道はもとより、水や食べ物さえないアフリカの映像でした。水がないので、アフリカの人々は、土や砂で食器を洗うしかありません。ビデオの中で子どもたちがクッキーを食べていましたが、それはじゃがいもと土を混ぜて作られたクッキーだそうです。私はそれを見て、本当に食べられるのだろうかと思いました。でも、アフリカの子供たちは、これさえないときもあり、そのときは寝ることで我慢します。

今までずっと忘れないシーンが一つあります。スーダンの一人の幼い女の子が、あまりの飢えのため道で座り込んでしまっているシーンです。その女の子の近くには一匹の秃鷹がじっとしているのです。秃鷹はこの女の子をねらっていて、彼女の死を待っていたのかもしれない。

今まであんなに静かに授業を受けたことはありませんでした。あの時、皆も心が痛かったのではないのでしょうか。

このビデオを通して、先生が教えたかったことが伝わってきました。ずっと幸せに暮らしている私たちは、世界の中で戦争や病気や飢餓などが起きていることについてあまり関心を持っていません。中国は発展途上国ですが、アフリカの国に比べてずっと豊かです。

私たちは今の生活に満足するべきです。そして、チャンスがあれば、その国の子供に援助するべきだということです。

あの授業から二年経った今、日本に来てもう半年が過ぎました。毎日平和で楽しく暮らしている私はこの問題を再び思い出しました。

今の世界では3秒に一人子供が病気によって亡くなっていますが、実はお金があればこの病気は予防できるのです。ユニセフによると、毎年5歳未満で命を落とす人が970万人いるそうです。そしてその大半はアフリカの子供だそうです。生まれてくる場所は選べませんが、命の重さはどこで生まれても同じはずです。子供時代は人生の中で一番幸せな時期だと思います。何故アフリカの子供は戦争や病気など悲しいことしか体験しないまま亡くなってしまうのでしょうか。これに対して私たちは何ができるのでしょうか。少しでもいいから、自分にできることがきっとあるはずだと思います。いろいろ考えました。

例えば、毎月千円か二千円を貯金して、年末にユニセフを通じて寄付したら、本当に多くの人を助けられます。千円といえばアルバイトの時給、二千円といえば教科書の値段です。少ない金額ですが、アフリカの子供のために使うなら大きな価値があることに変われると思います。千円の寄付は注射ワクチン30本分の価値があります。1万3千円あれば、アフリカの一人の子供の1年間の生活と学習の費用を十分にまかなうことができます。これが子どもたちのために使われたら、本当に幸せな気持ちになります。

自分の手を通して、アフリカの子供たちに笑顔をもっともっと取り戻し、自分の愛を通してアフリカの子供たちにずっとずっと笑顔でいさせたいと願っています。